

農地守るポイントは地域の全員参加



地域でまとめた京力農場プランを実現する際の課題解決の方法を探ろうと、中

丹東・西農業改良普及センターの主催で「中丹京力農場プラン現地交流研修会」が福知山市戸田で開かれ、地域の代表や関係機関の職員ら約60人が参加し、意見を交わしたII写真。

研修会では、農事組合法人遷喬（せんきょう）ふあーむ（福知山市）、株よほろファーム（舞鶴市）、私市（きさいち）営農組合（綾部市）の代表がそれぞれ

の事例を報告した後にパネルディスカッションを行った。

いずれの地域も、地域の京力農場プランで集落型農業法人や担い手を営農の中核に据え、農地集積を進めていくことを描いている

が、草刈りや水路掃除など、担い手に過度な負担がかからないようにすることが課題となっている。

「担い手が地域から支えられながら農地を守る事例」と題した報告の中で、私市営農組合の森方義孝組

合長は、年2回の水路掃除と水路沿いの草刈り、農道の砂利敷きは多面的機能支払の活動として集落全戸参加で行っていることを発表した。

その後、3集落でつくる、地元・福知山市の農事組合法人遷喬ふあーむを現地見学した。

綾部市からの参加者の一人は、「うちの地域でも営農組織の法人化を考えているが、米価が低迷する中、すべてを法人に任せてしまうと、経営が成り立たなくなるのは必至。地域全員での協力体制の大切さを改めて認識した」と研修会の成果を振り返った。

担い手の負担軽減へ具体策確認